

彙 報

令和三年度 密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。

各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

〔研究会〕

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

十月十五日（木） 於：高野山大学第一会議室

徳重弘志「日本中世における六観音信仰の受容と展開」

大家秀夫「言語アーラヤ識の解明に向けて」

— 空有論争と空海の法身説法 —

十一月十八日（木） 於：高野山大学第一会議室

静 春樹「四印契説」を唱導したマイトリパ学統が提起した

「四歡喜説」について：Harunaga Isaacson と

Francesco Serra の著作に学ぶ

十一月十九日（金） 於：高野山大学第一会議室

菊谷竜太「ヤシヨーパードラ著『金剛句心髓集難語釈』について」

木下浩良「高野山奥之院発見の山名時義の宝篋印塔」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催し、その研究成果を公表する。

※会員

松長有慶、川崎一洋、北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、武内孝善、土居夏樹、

徳重弘志、那須真裕美、藤田光寛、松長潤慶、南昌宏、米田弘仁

※活動実績

『弁頭密二教論』の研究会を原則として月二回行った。

（発表者及び日程）

土居 夏樹…四月十五日、五月六日、五月二十日、七月二十二日、

十月十四日、十二月二十三日

櫻木 潤…六月十日

那須真裕美…六月二十四日、七月八日

徳重 弘志…十月二十八日、十一月二十五日、十二月九日

※刊行物

研究会の成果を『密教文化研究所紀要』別冊として、以下の内容で発行する。

『弁頭密二教論』の研究 令和四年三月 発刊予定

○南山教学研究会・真言教学研究会・宗学連携事業

※これらの事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「令和三年度研究活動報告」（後掲）を参照願いたい。

○聖フランシスコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト

（以下「ザビエル研究会」）

※趣旨

本研究会は、イエズス会の宣教師であったフランシスコ・ザビエルの書翰を

題材として、高野山大学（密教文化研究所）とシアトル大学の有志者が共同研究を行い、ザビエルの日本滞在時にどのような宗教間対話が行われていたのかを検証することを目的としている。

本年度は、シアトル大学側の研究者が中心となり、ザビエルの書翰を多角的なアプローチで検証した上で、オンラインリモート会議システムを利用して口頭発表を行った。

※メンバー

【高野山大学】

佐藤隆彦（高野山大学・教授）

奥山直司（高野山大学・教授）

Thierry J. Robouan（上智大学・元教授）

菊谷竜太（京都大学白眉センター・特定准教授）

徳重弘志（高野山大学密教文化研究所・専任研究員）

今中太定（シアトル高野山・ヘッドブリスト）

【シアトル大学】

Jason Wirth（シアトル大学・教授）

Noomi Kasumi（シアトル大学・教授）

Sharon Suh（シアトル大学・教授）

Jessica Imanaka（シアトル大学・准教授）

Michael Trice（シアトル大学・准教授）

Douglas Peduti（シアトル大学・講師）

※活動実績

シアトル大学との共同研究会

第一回 五月三十一日（月）

Imanaka、Wirth、菊谷、徳重、Robouan による口頭発表と、それに対する質疑応答。

第二回 八月三十日（月）

Peduti、Suh、Kasumi、Trice、Robouan による口頭発表と、それに対する質疑応答。

カンファレンス（オンラインリモート会議システムによる開催）

十二月十三日（月）

今中、Imanaka、Trice による口頭発表と、それに対する質疑応答。

十二月十四日（火）

Robouan、Peduti、Wirth による口頭発表と、それに対する質疑応答。

○密教文献英訳推進会（今年度より開始）

※趣旨

高野山大学・高野山真言宗・高野山住職会の宗学連携事業。

弘法大師及び密教に関する英文資料を作成し、英語文化圏の人たちへの布教・伝道に役立て、広く人類の幸福と社会の発展に寄与する。

※担当

トーマス・ドライトライン（本学名誉教授）

※活動実績

弘法大師関係の資料収集、英文による入門書等の作成を遂行中。

○巡礼遍路研究会（協力事業）

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

名誉会長・山陰加春夫

会長・柴谷宗叔

事務局長・谷口真梁

会計・中西隆壽

理事・鬼頭尚義、角川博泉、中野健秀

※会員数

約二百名（法人・団体含む）

※活動実績

巡礼遍路研究会第7回研究発表会兼総会

日時…令和三年六月十九日(土)

場所…大阪・ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

五階特別会議室

基調講演

静慈園・高野山大学名誉教授「弘法大師入唐の足跡をたどる」

研究発表

藤澤久弘「大坂三十三観音巡り札所の盛衰」

益田勉「空海の山林修行に関する一考察」

矢部弘幸「高群逸枝の四国遍路 二点の納経帳を中心に」

参加者

三〇人

会員数 二〇〇人

【講演会】

○人權講演会(共催…高野山金剛峯寺社会人権局)

※前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により中止。

【その他事業】

○高野山聖教調査研究

清浄心院文書の調査を継続中。

今年度は他組織が過去に実施した調査結果を収集し、データベース化を推進している。作業には、坂口専従研究所員の指導のもと、院生・学生がアルバイトとして参加している。

○博字連携事業

御影堂文書の調査を継続。今年度は番外9箱分の調査を作成中。

令和三年度研究活動報告

専任研究員 徳重 弘志

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域(弘法大師の思想とその展開に関する研究、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」)のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。

本年度の成果としては、①『理趣広経』における「四姉妹のタントラ」の位置づけの確定
②『理趣広経』「四姉妹のタントラ」のチベット語訳校訂テキストおよび和訳の作成
③日本中世における地獄からの救済者としての観音に対する信仰の受容状況の解明、④日本中世・近世における「宋代翻訳密教経典」の受容状況の解明、といった四点が挙げられる。

①に関しては、Kamakagomin(紀元後九〜十世紀)が *Pyramidavāṇīkā* の中で言及している *Candhagāyāṇtra* (四姉妹のタントラ) と、『理趣広経』の一節が同名である点に着目し、両者が同一のものであることを論証した。

②に関しては、①で研究対象とした『理趣広経』「四姉妹のタントラ」について、その経典本文と注釈書のチベット語訳校訂テキストおよび和訳を作成した。

③に関しては、高野山大学(密教文化研究所)とシアトル大学との有志者による共同研究の一環として、十六世紀の日本における地獄からの救済者としての観音について検討を行った。具体的には、密教的な「六観音」が衆生を六道から救済するという平安時代に隆盛した概念が、フランシスコ・ザビエルが日本に滞在していた時期にも存続していたことを立証した。

④に関しては、『STC大蔵経データベース』を活用し、「宋代翻訳密教経典」に言及する中世・近世の日本で撰述された文献を網羅的に調査した。その成果としては、日本の僧侶に強い影響を与えた「宋代翻訳密教経典」の特定などが挙げられる。なお本研究は、「一般財団法人仏教学術振興会研究助成」による研究成果の一部である。

【研究発表】

- ・「日本中世・近世における「宋代翻訳密教経典」の受容について」、密教研究会学術大会、七月十日(土)、於 高野山大学。
- ・「Kamakagominが言及する *Candhagāyāṇtra* について」、日本印度学仏教学会 第

七十二回学術大会、九月四日（土）、於 大谷大学（オンラインリモート会議システムによる開催）。

【論文】

- ・「Karakagomin」が言及する *Camrthaginiṅtra* について、『印度学仏教学研究』第七〇巻第二号（掲載予定）。
- ・『理趣広経』『真言分』における *Camrthaginiṅtra* のチベット語訳校訂テキストおよび和訳、『高野山大学密教文化研究所紀要』第三五号。
- ・“On belief in Avalokiteśvara as a Savior from Hell in medieval Japan”、『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊 第八号（掲載予定）。
- ・「日本中世・近世における『宋代翻訳密教経典』の受容について」、『密教文化』第二四七・二四八号（掲載予定）。

令和三年度研究活動報告

委託研究院 北川真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究所員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させた。令和三年度は、新型コロナウイルス流行の影響もあり、種々の活動が制限される中、次のような活動を実施している。

- ① 南山の論義書の輪読会
- ② 論義に関する調査・研究
- ③ 南山・智山・豊山による論義研究会の会報の発行
- ④ 宗学連携事業

i 高野山勸学会への協力

・ 勸学会における講義の実施

・ 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

ii 山内論義で用いられる論義資料の調査と辞典作成

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後さらさらこれらの活動を進めていく。

参加者…土居夏樹 研究所員・高野山大学准教授

北川真寛 委託研究員（事務局）

山本昌芳 高野山大学大学院生

（以上、輪読会発表担当者）

南昌宏 高野山大学教授

中西雄泰 高野山引撰院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院

安田弘明 高野山親王院

高柳公禪 元助手

嶋田和日羽 大学院生

その他、山内寺院住職・大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

・六月三日（木）一五時～一六時三〇分

北川真寛 「三諦総句について」

【研究発表】

七月十日（土）密教研究会

北川真寛 「三諦総句について——論義書を中心に——」

十一月五日（金）日本密教学会

北川真寛 「南山教学における闡提成仏について——論義書を中心に——」

【論文】

北川真寛 「南山教学における闡提成仏について——論義書を中心に——」

（『密教学研究』五四）

【真言教学研究会】

・新型コロナウイルス流行に鑑み、研究会の開催中止。

・『真言教学』第二号を刊行。

【宗学連携事業】

・勧学会の期間（二日廻し）中に、勧学会出仕者に対して『釈摩訶衍論』に関する講義を行った。

・『釈摩訶衍論』巻四上半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂した。

・法談論義で使われる専門用語や、宝門と寿門で読み方が異なる語句など、問講において参考となる字典（辞典）の作成を目指して、資料の収集や選定、項目の入力作業を行った。

※宗学連携事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の辞典に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

密教文化研究所構成員名簿（令和四年三月現在（各々五十音順））

○所長

佐藤隆彦（高野山大学教授）

○顧問

松長有慶（高野山大学名誉教授）

○専任研究所員

坂口太郎（高野山大学専任講師）

櫻木潤（高野山大学准教授）

○兼任研究所員

奥山直司（高野山大学教授）

土居夏樹（高野山大学准教授・図書館長）

野田悟（高野山大学准教授）

松長潤慶（高野山大学教授・副学長）

南昌宏（高野山大学教授・大学院委員長）

○専任研究員

徳重弘志（高野山大学非常勤講師 ※ザビエル研究会等）

○委託研究員

今中太定（シアトル高野山ヘッド・ブリスト ※ザビエル研究会）

入谷和也（高野七口再生保存委員会事務局 ※プランディング事業）

川崎一洋（高野山大学特任准教授 ※弘法大師著作研究会）

菊谷竜太（京都大学特定准教授 ※ザビエル研究会）

北川真寛（高野山大学非常勤講師 ※南山教学研究会等）

ティエリ・ロバーム（元上智大学教授 ※ザビエル研究会）

那須真裕美（高野山大学非常勤講師 ※弘法大師著作研究会）
米田弘仁（高野山大学非常勤講師 ※弘法大師著作研究会）

○受託研究員

井川裕寛
大家秀夫
木下智雄
木下浩良
静春樹
柴谷宗叔
高橋良久
橋本弘文

○研究所事務室

元山慧香
波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

- （1）研究所長
 - （2）専従研究所員
 - （3）「紀要」編集担当者
- 2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

- （1）「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
- （2）「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 研究所長
- (2) 研究所員
- (3) 研究員
- (4) 編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として4000字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介（掲載順）

木下浩良	密教文化研究所受託研究員
徳重弘志	密教文化研究所専任研究員
静春樹	密教文化研究所受託研究員
テンジン・ウセル	高野山大学特任准教授
藤田光寛	高野山大学名誉教授

編集後記（所長）

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十五号をお届け致します。

四人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

○弘法大師著作研究会では、今年度も研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、教学の継承と普及、発展に向けて、また一歩前進した年とも位置づけております。

○令和三年五月二十日、委託研究員の入谷和也氏が逝去されました。私立大学研究ブランディング事業の完遂に多大な貢献をされた上、今後の活躍も期待された矢先の出来事でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○今後とも、密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十五号

令和四年三月二十一日 印刷
令和四年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤 隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学
電話（〇七三六）五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五―三
電話（〇七三）四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七